

12-1 階級支配の条件は被支配者の労働力の再生産費を保障できること

「われわれがすでに見たように、これまでのすべての社会は、抑圧する階級と抑圧される階級との対立のうえに立っていた。だが、一つの階級を抑圧することができるためには、その階級が、すくなくとも奴隷としての生存を保っていけるだけの条件が保証されていなければならない。農奴は農奴制のもとで努力してコミュニンの成員に成り上がったし、同様に、小市民は封建的絶対主義のくびきのもとで努力してブルジョアに成り上がった。これに反して近代の労働者は、工業の進歩につれて向上しないで、自分自身の階級の諸条件を下まわってますます深く沈んでいく。労働者は窮民となり、貧困は人口や富の増大よりもいっそう急速に増大する。こうして、ブルジョアジーが、もはやこれ以上社会の支配階級にとどまって、自分の階級の生活諸条件を規制的な法則として社会に押しつける能力をもたないことが、明らかになる。彼らが支配する能力をもたない、というのは、自分の奴隷にその奴隷制のなかでの生存をさえ保証する能力がないからである。彼らが奴隷に養ってもらうのではなく、かえって彼らのほうで奴隷を養わなければならないような状態に、奴隷を落とさざるをえないからである。社会は、もはやブルジョアジーのもとでは生きていくことができない。いいかえれば、ブルジョアジーの生存は、もはや社会とあい入れない。」 〈マルクス経済学レキシコンIV P225 III. 『共産党宣言』における唯物史観の展開〉